

タイトル	マルクス「1861-63 年草稿」ノート第XX-XXIII 冊「追補」と『資本論』関連諸草稿
著者	森下，宏美；MORISHITA, Hiromi
引用	季刊北海学園大学経済論集，65(4)：129-143
発行日	2018-03-31

《研究ノート》

マルクス「1861-63年草稿」ノート第XX-XXIII冊
「追補」と『資本論』関連諸草稿

森 下 宏 美

1. 本稿の課題

マルクスは、1861年8月から1863年7月までのあいだに、「1861-63年草稿」と呼ばれる計23冊のノートを作成している。これらのノートは、『経済学批判. 第1分冊』——「第1章 商品」「第2章 貨幣または単純流通」——の続篇たる『第2分冊』——「第3章 資本一般」——の草稿として執筆されたものであるが、そのうちのノート第XX-XXIII冊（以下、HeftXX-XXIIIなどと表記する）には、草稿の途中にはさみ込まれるように3つの「追補」が書き記されている。HeftXX S.1291aからHefXXI S.1301に書かかれている「追補／間奏. ヒュームとJ・マッシー」（約6ページ分）、HeftXX S.1331からHeftXXII S.1352に書かれている「追補／歴史的〔追補〕. ペティ」（約22ページ分）、HeftXXII S.1397からHeftXXIII S.1460に書かれている「追補」（約65ページ分）がそれである。

計約93ページに及ぶこれらの「追補」は、多数の文献の抜粋から成っているが、それはいかなる目的のために作られたのであろうか。このことについて筆者は、森下2010および森下2013において、これらの「追補」は、『資本論』の草稿を執筆するための《引用ノート》としての役割を果たすべく作成されたものであるとの仮説を提示した。「《引用ノート》としての役割」とは、次のような意味である。マルクスは、「第3章 資本一般」の執筆にあたり、そのための準備資料として、それまでに作成した多数の経済学抜粋ノートを通覧し、それらから取捨選択した章句を諸種の見出タイトルのもとに転記したノートを作成している。これが「第3章 資本一般」執筆のための「引用ノート Citatenheft」¹⁾である。筆者の仮説は、マルクスが『資本論』の草稿を執筆した際、「第3章 資本一般」の執筆過程で「引用ノート」が果たしたのと同様の役割を、HeftXX-XXIII「追補」部分が果たしたのではないかということである（森下2010 pp.1-4、森下2013 pp.113-5）。

この仮説を検証するために、筆者まず、「引用ノート」の構成上および作成過程の特徴を析出し、同じ特徴がHeftXX-XXIII「追補」部分にも認められることを示した（森下2010 pp.4-14、森下2013 pp.115-28）。

「引用ノート」と同様に、3つの「追補」に見られる抜粋は、すでに作成済みの経済学抜粋ノートから、諸種の見出タイトルのもとに転記されたものであるが、その際にマルクスが利用し

¹⁾ 「引用ノート Citatenheft」の詳細については、大野・佐武1984を参照されたい。

た経済学抜粋ノートは、「厚いノート Dickses Heft」²⁾と「サブノート Beihefte」³⁾である。そこで次に行った検証作業は、HeftXX-XXIII「追補」部分の抜粋と、『資本論』第1部初版での引用とを比較し、「厚いノート」・「サブノート」→HeftXX-XXIII「追補」部分→『資本論』第1部初版という引用関係を推測させる事例を確認することであった。その結果、そのような事例として122例を確認した(森下2010 pp.14-8, 森下2013 pp.128-32)。

そこで本稿では、この検証作業を補強するために、引用関係の確認対象を『資本論』関連諸草稿にまで拡大し、「厚いノート」・「サブノート」→HeftXX-XXIII「追補」部分→『資本論』関連諸草稿という引用関係を推測させる事例を確認したい。

2. 引用関係の確認

本稿が確認対象とした『資本論』関連諸草稿は以下のとおりである(各草稿の頭に付した番号は筆者が便宜的に付したものである)。

MEGA[®]II/4.1 所収

- 1) Das Kapital. Erstes Buch. Der Produktionsproceß des Kapitals (MEGA[®]II/4.1, S. 5-136)
- 2) Das Kapital. Zweites Buch. Der Cirkulationsproceß des Kapitals [Manuskript I] (MEGA[®]II/4.1, S. 137-381)

MEGA[®]II/4.2 所収

- 3) Das Kapital. Drittes Buch. Die Gerstaltungen des Gessamtprozesses (MEGA[®]II/4.2, S. 7-902)

MEGA[®]II/4.3 所収

- 4) Drittes Buch. Erstes Kapitel. Verwandlung des Mehrwerts in Profit. Die Profitrate (Erster Entwurf) (MEGA[®]II/4.3, S. 7-9)
- 5) Drittes Buch. Erstes Kapitel. Verwandlung des Mehrwerts in Profit und der Rate des Mehrwerts in Profitrate (Zweiter Entwurf) (MEGA[®]II/4.3, S. 10-13)
- 6) Drittes Buch. Erstes Kapitel. Verwandlung des Mehrwerts in Profit und der Rate des

²⁾「厚いノート Dickses Heft」とは、「1857-58年草稿」として書かれた7冊のノートのうちの7冊目のノートのことである。マルクスは、このノートの1~64ページに草稿の最終部分を書き、残りのページを抜粋ノートとして利用している。このノートの厚さは約1.5センチあり、マルクスは、このノートの抜粋部分への参照指示を与える場合、しばしばこれを「厚いノート Dickses Heft」と呼んでいる。「厚いノート」の詳細については、佐武・大野1984を参照されたい。

³⁾「サブノート Beihefte」とは、1863年5月から6月にかけてマルクスが作成した8冊の抜粋ノートのことである。これらのノートにはAからHまでの記号が付され、総ページ数は786ページである。それぞれの作成時期は、「サブノートA」=1863年5月、「サブノートB」=1863年5月、「サブノートC」=1863年5月・6月、「サブノートD」=1863年6月、「サブノートE」=1863年5月・6月、「サブノートF」=1863年6月、「サブノートG」=1863年6月、「サブノートH」=1863年6月と推定されている(森下2010 p.11, 森下2013 pp.123-4)。森下2010 pp.23-8に記載の「資料2『サブノート Beihefte』抜粋文献一覧」も参照されたい。

Mehrwerts in Profitrate (Dritter Entwurf) (MEGA[®]II/4.3, S. 14-31)

- 7) Zweites Buch. Der Zirkulationsprozeß des Kapitals. Anfang des ersten Kapitels (MEGA[®]II/4.3, S. 32-43)
- 8) Thematisch ausgewählte Quellenauszüge für Buch 2 des „Kapitals“ (MEGA[®]II/4.3, S. 44-56)
- 9) Gesetze der Profitrate (MEGA[®]II/4.3, S. 57-77)
- 10) Über Mehrwert- und Profitrate, Gesetze der Profitrate, Kostpreis und Umschlag des Kapitals (MEGA[®]II/4.3, S. 78-234)
- 11) Differentialrente. Auszüge aus Exzerptheften (MEGA[®]II/4.3, S. 235-243)
- 12) Profitrate, Kostpreis und Umschlag des Kapitals (MEGA[®]II/4.3, S. 244-284)
- 13) Zweites Buch. Der Zirkulationsprozeß des Kapitals (Manuskript IV) (MEGA[®]II/4.3, S. 285-363)
- 14) Drittes Buch. Erstes Kapitel. Verwandlung des Mehrwerts in Profit und der Rate des Mehrwerts in Profitrate (Vierter Entwurf) (MEGA[®]II/4.3, S. 383-396)

MEGA[®]II/11 所収

- 15) Das Kapital 〈Ökonomisches Manuskript 1868-1870〉 Zweites Buch: Der Zirkulationsprozess des Kapitals. (Manuskript II) (MEGA[®]II/11, S. 1-522)
- 16) Das Kapital. Zweites Buch: Der Zirkulationsprozeß des Kapitals. Zu benutzende Textstellen früherer Darstellungen (Manuskript I bis IV) (MEGA[®]II/11, S. 525-48)
- 17) Das Kapital. Zweites Buch: Der Zirkulationsprozeß des Kapitals. Erster Abschnitt. Eingang (Fragmente. I) (MEGA[®]II/11, S. 549)
- 18) Das Kapital. Zweites Buch: Der Zirkulationsprozeß des Kapitals. Erster Abschnitt (Fragmente. II) (MEGA[®]II/11, S. 550-5)
- 19) Das Kapital. Zweites Buch: Der Zirkulationsprozeß des Kapitals. Erster Abschnitt (Manuskript V) (MEGA[®]II/11, S. 556-662)
- 20) Das Kapital. Zweites Buch: Der Zirkulationsprozeß des Kapitals. Erster Abschnitt (Fragmente. III) (MEGA[®]II/11, S. 663-4)
- 21) Das Kapital. Zweites Buch: Der Zirkulationsprozeß des Kapitals. Erster Abschnitt (Manuskript VI) (MEGA[®]II/11, S. 665-78)
- 22) Das Kapital. Zweites Buch: Der Zirkulationsprozeß des Kapitals. (Fragmente. IV) (MEGA[®]II/11, S. 679-83)
- 23) Das Kapital. Zweites Buch: Der Zirkulationsprozeß des Kapitals. Erster Abschnitt (Manuskript VII) (MEGA[®]II/11, S. 684-97)
- 24) Das Kapital. Zweites Buch: Der Zirkulationsprozeß des Kapitals. (Manuskript VIII) (MEGA[®]II/11, S. 698-828)

MEGA[®]II/14 所収

- 25) Karl Marx: Manuskripte zum Dritten Buch des „Kapitals“ · 1871 bis 1882 (MEGA[®]II/14, S. 3-162)

Formeln und Berechnungen zu Mehrwert- und Profitrate (S. 3-7)／Rate des Mehrwerts und Profitrate (S. 8-18)／Mehrwert- und Profitrate mathematisch behandelt (S. 19-150)／Differentialrente und Rente als bloßer Zins des dem Boden einverleibten Kapitals (S. 151-2)／Mehrwert- und Profitratenformeln (S. 153-4)／Über Profitrate, Kapitalumschlag, Zins und Rabatt (S. 155-162)

これらの『資本論』関連諸草稿を対象として、先に述べた引用関係を確認できた事例は 19 例である。草稿ごとのその内訳は以下のとおりである。

1) Das Kapital. Erstes Buch. Der Productionsproceß des Kapitals

[Einzelne Seiten] ・ ・ ・ 4 例

Sechstes Kapitel. Resultate des unmittelbaren Produktionsprocesses.

1) Waaren als Product des Capitals. ・ ・ ・ 1 例

2) Kapitalistische Production als Produktion von Mehrwerth. ・ ・ ・ 3 例

3) Das Kapital. Drittes Buch. Die Gestaltungen des Gesammtprozesses

Fünftes Kapitel. Spaltung des Profits in Zins und Unternehmungsgewinn. (Industrieller oder Commecieller Profit). Das Zinstragende Cappital.

1) [Das zinstragende Kapital] ・ ・ ・ 2 例

2) Theilung des Profits. Zinsfuß. Die natural rate of interest. ・ ・ ・ 4 例

Siebentes Kapitel. Revenuen (Einkommen) und ihre Quellen.

2) [Zur Analyse des Produktionsprocesses] ・ ・ ・ 2 例

15) Das Kapital 〈Ökonomisches Manuscript 1868-1870〉 Zweites Buch: Der Zirkulationsprozess des Kapitals (Manuskript II)

Zweites Kapitel. Der Umschlag des Kapitals

Zur Kritik der Theorien über fixes u. Cirkulierendes Kapital ・ ・ ・ 1 例

Drittes Kapitel. Die realen Bedingungen des Cirkulations- u. Reproduktionsprocesses

A) Die gesellschaftliche Cirkulation v. Constantem Kapital, variablem Kapital u. Merwerth ・ ・ ・ 2 例

巻末に掲載した表「引用比較」は、以上の 19 の事例について、HeftXX-XXIII「追補」部分にある抜粋文と草稿中での引用文とを比較したものである。なお、見出－抜粋整理番号 90-1・2, 262-2, 366-1 の引用比較においては、IISH (International Institute of Social History／アムステルダム国際社会史研究所) が公開している Beiheft の PDF 画像⁴⁾に基づいて、当該箇所の抜粋文も掲載した。

⁴⁾ <https://search.socialhistory.org/Record/ARCH00860/ArchiveContentList> からアクセスし、Exzerpte von Karl Marx (B1-168) で閲覧することができる。現在オンラインで公開されている Beiheft は、B, E, F, H である (2018 年 2 月 26 日現在)。

これらの中から、HeftXX-XXIII「追補」部分→『資本論』関連諸草稿という引用関係を強く推測できる事例をひとつ見てみよう。

見出—抜粋整理番号 90-1・2の抜粋文と1) Erstes Buch/Sechstes Kapitelにおける引用文のそれぞれの書き出しは、「Gesetzt das Arbeitsquantum spent upon an acre of land (in wheat) stelle sich dar in einem geldquantum = 7l.,」, 「Gesetzt das Arbeitsquantum spent upon an acre of land, z. B. in the production of wheat, stelle sich dar in 7 l. ,」と、ほとんど同じ表現である。一方、Beiheft Bにおける当該箇所の抜粋をみると、先の書き出しのような記述は見られない。このことから、1) Erstes Buch/Sechstes Kapitelにおける引用文が「追補」の記述をもとに書かれたものであることは明らかであろう。引用文ではそのあとに、マルクスによる剰余価値率の計算があるが、それはおそらく、Beiheft Bの5ページに抜粋されている小麦生産にかかわる費用の数字例に基づくものであろう。

この事例においては、「追補」の記述をもとに、適宜「サブノート」を参照しながら引用文が作成されていった手順を明瞭に見て取ることができるが、他の事例に関してもこのような手順がとられたであろうことは、テキストの比較から十分に推測できる。

3. 考察と今後の課題

以上のことから、『資本論』関連諸草稿に関しても、「厚いノート」・「サブノート」→HeftXX-XXIII「追補」部分→『資本論』関連諸草稿という引用関係を推測できる事例を確認することができた。しかし、その事例数は19例であり、『資本論』第1部初版の場合の122例に比べると少なくて少ない。もっとも、『資本論』第1部草稿の大部分は散逸しており、本稿が確認対象としたMEGA[®]II/4.1所収の第1部関連の草稿は、散逸を免れたそのごく一部であることを考慮すれば、当然の結果と言える。

それと同時に明らかとなったのは、第2部関連諸草稿に関しては3例、第3部関連諸草稿に関しては8例が確認されるにとどまることである。このことは、第1部の執筆の際に果たしたHeftXX-XXIII「追補」部分の役割の大きさに比べ、第2部および第3部関連諸草稿の執筆におけるそれが小さなものであったことをうかがわせる。ただし、HeftXX-XXIII「追補」部分には「サブノート」への参照指示が約90ヶ所確認できるのであり、それらの参照指示に従った「サブノート」からの引用事例をこれらの諸草稿中に確認する作業が今後の課題となる。

参考文献

- MEGA[®]II/4.1: *Karl Marx - Friedrich Engels Gesamtausgabe, Abt. 2, Band 4, Ökonomische Manuskripte 1863-1867, Text, Teil 1, 1. Aufl.*, Dietz Verlag, 1988.
- MEGA[®]II/4.2: *Karl Marx - Friedrich Engels Gesamtausgabe, Abt. 2, Band 4, Ökonomische Manuskripte 1863-1867, Text, Teil 2, 1. Aufl.*, Dietz Verlag, 1992.
- MEGA[®]II/4.3: *Karl Marx - Friedrich Engels Gesamtausgabe, Abt. 2, Band 4, Ökonomische Manuskripte 1863-1868, Text, Teil 3*, Akademie Verlag, 2012.
- MEGA[®]II/11: *Karl Marx - Friedrich Engels Gesamtausgabe, Abt. 2, Band 11, Manuskripte zum zweiten Buch des „Kapitals“ 1868 bis 1881*, Akademie Verlag, 2008.

MEGA[®]II/14: *Karl Marx - Friedrich Engels Gesamtausgabe, Abt. 2, Band 14, Manuskripte und redaktionelle Texte zum dritten Buch des „Kapitals“, 1871 bis 1895*, Akademie Verlag, 2003.

大野節夫・佐武弘章 1984:「マルクス『引用ノート』の作成過程——1859-1861 年——」『経済学論叢』(同志社大) 34 (1・2)

佐武弘章・大野節夫 1984:「マルクス ノート第Ⅶ冊抜粋部分(1859 年-63 年)——『1861-63 年草稿経済学批判』の関連資料の紹介——」『社会問題研究』(大阪府立大) 34 (1)

森下宏美 2010:「マルクス『1861-63 年草稿』ノート第 XX-XXIII 冊「追補」の分析——「厚いノート Dickes Heft」および「サブノート Beihefte」との関連において——」『経済論集』(北海学園大学) 58 (1)

森下宏美 2013:「『1861-63 年草稿』における『追補』と抜粋ノートとの関連について」(大谷禎之介・平子友長編『マルクス抜粋ノートからマルクスを読む MEGA 第 IV 部門の編集と所収ノートの研究』桜井書店, 2013 年, 所収)

本稿は、平成 28 年度北海学園学術研究助成・一般研究(題目:新 MEGA・IV-17 の編集と『資本論』形成史の研究)による研究成果の一部である。

1) Erstes Buch Einzelne Seiten	“When corn forms a part of the subsistence of the labourer, an increase in its natural price, necessarily occasions an increase in the natural price of labour; or, in other words, when it requires a greater quantity of labour to procure subsistence, a greater quantity of labour, or of its produce, must remain with the labourer, as his wages. But, as a greater quantity of his labor, or (what is the same thing) of the produce of his labour, becomes necessary to the subsistence of the laboring manufacturer, and is consumed by him while at work, a smaller quantity of the production of labour will remain with the employer.” (235. 236. <i>R. Torrens: An Essay on the External Corn Trade</i> . 1815.) [MEGA ² II/4.1, S.15. 26–33 u. S.16. 1–2]																					
10–1	Senior 1830 p. 14 sq.	⇒	「厚いノート」 「サブノート」 以外	⇒	HeftXXI S. 1333 <i>Zu dem Oben Bemerken über price of labour und value of the laboring power.</i>	⇒	1) Erstes Buch Einzelne Seiten															
HeftXXI S. 1333	“It is true that the causes which raise the <i>amount of the labourer’s wages</i> often raise the <i>capitalists’ profits</i> If, by <i>increased industry</i> , one man performs the work of two, both the amount of wages and the rate of profits will generally be raised. But the <i>rate of profits</i> will be raised not by <i>the rise of wages</i> , but in consequence of the <i>additional supply of labour having diminished its price</i> , or having diminished the period for which it had previously been necessary to advance that price.” (14 sq. N. W. <i>Senior: Three Lectures on the Rates of Wages. Lond. 1832</i>) [MEGA ² II/3–6, S. 2187. 2–10]																					
1) Erstes Buch Einzelne Seiten	[...] to three capital workmen or to 4 ordinary ones ... If the three could be hired at 3l. 10sh. a piece, while the 4 required 3l. a piece, though the wages of the three would be higher, the price of the work done by them would be lower. It is true that the causes which raise the amount of the labourer’s wages often raise the rate of the capitalist’s profits. If, by increased industry, one man performs the work of two, both the amount of wages and the rate of profits will generally be raised; not by the rise of wages, but <i>in consequence of the additional supply of labour having diminished its price</i> , or having diminished the period for which it had previously been necessary to advance that price. The labourer, on the other hand, is principally interested <i>in the amount of wages</i> . The amount of his wages being given, it is certainly his interest that the <i>price of labour should be high</i> , for on that depends the <i>degree of exertion</i> imposed on him.” (l. c. 14, 5) [MEGA ² II/4.1, S.18. 41 u. 19.30–9]																					
90–1✓ 90–2✓	Arbathnot 1773 pp. 107–8	⇒	Beiheft B	⇒	HeftXXII S. 1408 [<i>Werth und Price.</i>	⇒	1) Erstes Buch Sechstes Kapitel 1) Waaren als Product des Capitals															
Beiheft B S. 5–6	/5/.....By the foregoing estimate ... it appears that the farmer may, by great cars and with good luck, obtain about 25 p. c. per ann. but to do this he must sell his wheat at 46s. 8d. and his barley at 24s. it is not every soil that will admit of a course attended with so much profit. (103-107) To obtain this profit, the produce of an acre of wheat should sell for 7l. / /6/ His expences will always be nearly the same, but his crop may vary, therefore his wheat should sell in proportion to his crop; f. e. <table><tr><td></td><td>s.</td></tr><tr><td></td><td>“When he has 5qrs. he can sell at 28 ——— 7l.</td></tr><tr><td>4½</td><td>about 31</td></tr><tr><td>4</td><td>35</td></tr><tr><td>3½</td><td>40</td></tr><tr><td>3</td><td>46s. 8d</td></tr><tr><td>2½</td><td>56</td></tr><tr><td>2</td><td>70. (107, 108.)</td></tr></table>							s.		“When he has 5qrs. he can sell at 28 ——— 7l.	4½	about 31	4	35	3½	40	3	46s. 8d	2½	56	2	70. (107, 108.)
	s.																					
	“When he has 5qrs. he can sell at 28 ——— 7l.																					
4½	about 31																					
4	35																					
3½	40																					
3	46s. 8d																					
2½	56																					
2	70. (107, 108.)																					

	Gesetzt das <i>Arbeitsquantum</i> spent upon an acre of land (in wheat) stelle sich dar in einem <i>geldquantum</i> = 7<i>l</i>. “His (des farmers^s) expenses will <i>always be nearly the same</i>, but his crop may vary, therefore his wheat should sell in proportion to his crop.” (107. <i>An inquiry into the Connection etc By a Farmer.Lomdon 1773</i>.) Das Beispiel gut, weil vorausgesetzt mit einiger Wahrscheinlichkeit, daß die <i>Arbeit</i> gany dieselbe bleibt. Dann: <table><tr><td></td><td>s</td><td></td></tr><tr><td>“When he has 5qrs. he can sell at 28</td><td>——</td><td>7<i>l</i>.</td></tr><tr><td>4½</td><td>about 31</td><td>—— ditto</td></tr><tr><td>4</td><td>35</td><td></td></tr><tr><td>3½</td><td>40</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>46s. 8d</td><td></td></tr><tr><td>.</td><td>2½</td><td>56</td></tr><tr><td></td><td>2</td><td>70” (108 l.c.)</td></tr></table> [MEGA² II/3-6, S. 2305. 35-2306. 9]						s		“When he has 5qrs. he can sell at 28	——	7 <i>l</i> .	4½	about 31	—— ditto	4	35		3½	40		3	46s. 8d		.	2½	56		2	70” (108 l.c.)
	s																												
“When he has 5qrs. he can sell at 28	——	7 <i>l</i> .																											
4½	about 31	—— ditto																											
4	35																												
3½	40																												
3	46s. 8d																												
.	2½	56																											
	2	70” (108 l.c.)																											
1) Erstes Buch Sechstes Kapitel	Gesetzt das <i>Arbeitsquantum</i> spent upon an acre of land, z. B. in the production of wheat, stelle sich dar in 7<i>l</i>, wovon 4<i>l</i>. Neu zugesetzte Arbeit, 3<i>l</i>. In conatantem Capital bereiys vergegenständlichte Arbeit darstellen. Von den 4<i>l</i>. Sei 2<i>l</i>. Arbeitslohn und 2<i>l</i>. Mehrarbeit, nach dem vorausgesetzten Verhältniß der Surplusarbeit/Notwendigearbeit = 100/100. Aber die crop soll vary mit Variation der Jahrzeit. <table><tr><td><i>Gesammtzahl der Qrs.</i></td><td><i>one qr.</i></td><td><i>Werth oder Preiß des Gesammtproducts</i></td></tr><tr><td>„When he has 5</td><td>—he can sell 28sh</td><td>7<i>l</i>.</td></tr><tr><td>4½</td><td>about 31</td><td>ditto</td></tr><tr><td>4</td><td>35</td><td>„</td></tr><tr><td>3½</td><td>40</td><td>„</td></tr><tr><td>3</td><td>46s. 8d.</td><td>„</td></tr><tr><td>2½</td><td>56</td><td>„</td></tr><tr><td>2</td><td>70</td><td>„ “6)</td></tr></table> 6) p.108. „<i>An Inquirz into Connections etc.</i>” <i>By a Farmer. London. 1773</i>. [MEGA² II/4.1, S. 37. 12-27 u. 38]					<i>Gesammtzahl der Qrs.</i>	<i>one qr.</i>	<i>Werth oder Preiß des Gesammtproducts</i>	„When he has 5	—he can sell 28sh	7 <i>l</i> .	4½	about 31	ditto	4	35	„	3½	40	„	3	46s. 8d.	„	2½	56	„	2	70	„ “6)
<i>Gesammtzahl der Qrs.</i>	<i>one qr.</i>	<i>Werth oder Preiß des Gesammtproducts</i>																											
„When he has 5	—he can sell 28sh	7 <i>l</i> .																											
4½	about 31	ditto																											
4	35	„																											
3½	40	„																											
3	46s. 8d.	„																											
2½	56	„																											
2	70	„ “6)																											
129-1# 129-2#	Sismondi 1803 t.I pp. 36-7	⇒	Beiheft C	⇒	HeftXXIII S. 1417 [Austausch von vergegenständlichter Arbeit gegen Lebendige.	⇒	1) Erstes Buch Sechstes Kapitel 2) Kapitalistische Produktion als Produktion von Mehrwerth.																						
HeftXXIII S. 1417	« Comme tout homme est forcé de consommer avant de produire, l’ouvrier pauvre se trouve dans la <i>dépendance du riche</i>, et ne peut ni vivre ni travailler, s’il n’obtient de lui des denrées et des marchandises existantes, en retour de celles qu’il promet de produire par son travail. (36) Pour l’y (le riche) faire consentir (i. e. à ce marché) il a fallu convenir que toutes les fois qu’il <i>échangerait du travail fait contre du travail à faire</i>, le dernier aurait une valeur supérieure au premier. » (t. I. 37.). (<i>Simonde</i> (i. e. <i>Sismondi</i>) : <i>De la Richesse Commerciale etc Genève. 1803</i>) [MEGA² II/3-6, S. 2317. 27-34]																												

1) Erstes Buch Sechstes Kapitel	« Comme tout homme est forcé de consommer avant de produire, l'ouvrier pauvre se trouve dans la <i>dépendance</i> du riche, et ne peut ni vivre ni travailler, s'il n'obtient de lui des denrées et des marchandises existantes, en retour de celles qu'il promet de produire par son travail ... pour l'y [i. e. le riche] faire consentir, il a fallu convenir que toutes les fois qu'il échangerait du <i>travail fait</i> contre du <i>travail à faire</i> , le dernier aurait une valeur supérieure au premier. » (36, 37, t. I. <i>Sismondi</i> . De la <i>Richesse Commerciale</i> . Paris, 1803.) [MEGA ² II/4.1, S. 83. 40–5]					
262–2	Considerations 1753 p. 4	⇒	Beiheft H	⇒	HeftXXIII S. 1445 Senkung des Arbeitslohn. Arbeitszeitmasse in der ersten Hälfte des 18.Jh. in England. Beseitigung der Restraints, Zunftgesetze, Apprenticeship, Monopole etc. Freie Bewegung des Capitals Mittel den Arbeitslohn zu senken im Verhältniss zum Oreiss der Provisions.	⇒ 1) Erstes Buch Sechstes Kapitel 2) Kapitalistische Production als Produktion von Mehrwerth.
Beiheft H S. 2	/2/...Unter d. „difficulties“ „discouragement“ put upon industry, zählt er auf d. Apprenticeship act (many trades a man may not lawfully exercise who has not served an apprenticeship) others he may not join together: at others he may not work within the limits of a corporation ... every man, if not restrained by law, would pass from one employment to another, as the various turns in trade should require, ... our present restraints often put it in the power of workmen to demand higher wages than their works deserve, and thus prevent the sales of our manufactures. (4)					
HeftXXIII S. 1445	Unter den „difficulties“ und „discouragement“ put upon industry, zählt er auf d. „Apprenticeship Act (many trades a man may not lawfully exercise who has not served an apprenticeship), others he may not join together: at others he may not work within the limit of a corporation ... every man, if not restrained by law, would pass from one employment to another, as the various turns in trade should require, ... our present restraints often put it in the power of workmen to demand higher wages than their works deserve, and thus prevent the sales of our manufactures.“ (4) [MEGA ² II/3–6, S. 2353. 5–12]					
1) Erstes Buch Sechstes Kapitel	143) “Every man, if not restrained by law, would pass from one employment to another, as the various turns in trade should require.” (4. „Considerations concerning taking off the Bounty on Corn exported“ etc. London. 1753). [MEGA ² II/4.1, S. 88. 37–9]					
19–1	Smith (A.) 1814 v.3 p. 309	⇒	「厚いノート」 「サブノート」 以外	⇒	HeftXXI S. 1342 Capital.	⇒ 1) Erstes Buch Sechstes Kapitel 2) Kapitalistische Production als Produktion von Mehrwerth.
HeftXXI S. 1342	„Stock cultivates land: stock employs labour.“ (Wealth of Nations. B. V, ch. II, edit. Buchanan. 1814. t. III, p. 309) [MEGA ² II/3–6, S. 2200. 18–20]					
1) Erstes Buch Sechstes Kapitel	“Stock cultivates land: stock employs labor.” (A. Smith. l. c. b. V, ch. II (edit. Buchanan. 1814. v. III. p. 309) [MEGA ² II/4.1, S. 124. 9–10]					

8-4	[Massie] 1750 p. 49	⇒	Beiheft A	⇒	HeftXXI S. 1300 (J.Mass) An Essay on the Governing Causes of the Natural Rate of Interest, wherein the sentiments of Sir W. Petty and Mr. Locke, on that head, are considered. London. 1750	⇒	3) Drittes Buch Fünftes Kapitel 1) [Das zinstragende Kapital]
HeftXXI S. 1300	The equitableness of taking interest depends not upon a man's making or not making <i>profit</i> by what he borrows, but upon its being capable of producing profit if rightly employed. (49) [MEGA ² II/3-6, S. 2125. 14-6]						
3) Drittes Buch Fünftes Kapitel	a) "The equitableness, of taking interest, depends not upon a man's making or not making <i>profit</i> , but upon its (das Geborgte) being capable of producing profit, if rightly employed." (49). <i>An Essay on the Governing Causes of the Natural Rate of Interest</i> , wherein the sentiments of Sir W. Petty and Mr. Locke, on that head, are considered. <i>London. 1750</i> (Verfasser der anonymen Schrift: <i>J. Massie</i> .) [MEGA ² II/4.2, S. 424. 39-41 u. S. 425. 37-8]						
8-2	[Massie] 1750 pp. 23-4	⇒	Beiheft A	⇒	HeftXXI S. 1300 (J.Mass) An Essay on the Governing Causes of the Natural Rate of Interest, wherein the sentiments of Sir W. Petty and Mr. Locke, on that head, are considered. London. 1750	⇒	3) Drittes Buch Fünftes Kapitel 1) [Das zinstragende Kapital]
HeftXXI S. 1300	Rich people "instead of employing their money themselves, let it out to other people for them to make profit of, reserving for the owners a <i>proportion of the profits to be made</i> . But when the riches of a country are dispersed into so many hands, and so equally divided, as not to leave many people enough to maintain two families, by employing it in trade, there can be <i>little borrowing</i> for 20000l., when it belongs to one man, cannot be lent, because the interest of it will keep a family, but if it belongs to ten men, it cannot be lent, because the interest will not keep 10 families. (23, 24) [MEGA ² II/3-6, S. 2122. 37-2125. 3]						
3) Drittes Buch Fünftes Kapitel	b) <i>I. c.</i> "Rich people ... instead of employing their money themselves ... let it out to other people <i>for them to make profit of</i> , reserving for the owners a <i>proportion of the profits</i> so made." (p.23 [,24] l. c.). [MEGA ² II/4.2, S. 425. 39-41]						
8-5f	[Massie] 1750 p. 49	⇒	Beiheft A	⇒	HeftXXI S. 1300 (J.Mass) An Essay on the Governing Causes of the Natural Rate of Interest, wherein the sentiments of Sir W. Petty and Mr. Locke, on that head, are considered. London. 1750	⇒	3) Drittes Buch Fünftes Kapitel 2) Theilung des Profits. usw..
HeftXXI S. 1300	If that which men pay as interest for what they borrow, be a part of the profits it is capable of producing , this <i>interest</i> must always be governed by those <i>profits</i> . (49). [MEGA ² II/3-6, S. 2125. 16-8]						

3) Drittes Buch Fünftes Kapitel	Da “that which men pay as interest for the use of what they borrow, be a part of the profits it is capable of producing, <i>this interest must always be governed by those profits.</i> ” ^{a)} a) Massie l. c. (49) [MEGA ² II/4.2, S. 432. 5–7]					
8–8	[Massie] 1750 p. 51	⇒	Beiheft A	⇒	HeftXXI S. 1300 (J.Massie) An Essay on the Governing Causes of the Natural Rate of Interest, wherein the sentiments of Sir W. Petty and Mr. Locke, on that head, are considered. London. 1750	⇒ 3) Drittes Buch Fünftes Kapitel 2) Theilung des Profits. usw.
HeftXXI S. 1300	The <i>natural rate of interest</i> is governed by the <i>profits of trade</i> to particulars.” (51) [MEGA ² II/3–6, S. 2125. 28–9]					
3) Drittes Buch Fünftes Kapitel	a) “The natural rate of interest is governed by the <i>Profits of Trade</i> to Particulars.” (Massie. l. c. 51) [MEGA ² II/4.2, S. 432. 40–1]					
8–6	[Massie] 1750 p. 49	⇒	Beiheft A	⇒	HeftXXI S. 1300 (J.Massie) An Essay on the Governing Causes of the Natural Rate of Interest, wherein the sentiments of Sir W. Petty and Mr. Locke, on that head, are considered. London. 1750	⇒ 3) Drittes Buch Fünftes Kapitel 2) Theilung des Profits. usw.
HeftXXI S. 1300	What proportion of these profits do of right belong to the borrower, and what to the lender? and this there is no other method of determining than by the opinions of borrowers and lenders in general: for right and wrong in this respect, are only what common consent makes. (49) [MEGA ² II/3–6, S. 2125. 18–22]					
3) Drittes Buch Fünftes Kapitel	g) Massie bemerkt hier schon mit vollem Recht: “The only thing which any man can be in doubt about on this occasion, is, <i>what proportion of these profits do of right belong to the borrower</i> , and what <i>to the lender</i> ; and this there is other method of determining than by the opinions of borrowers and lenders in general: for right and wrong in this respect, are only what common consent makes so.” (l. c. 49.) [MEGA ² II/4.2, S. 435. 39–43]					
8–7	[Massie] 1750 p. 50	⇒	Beiheft A	⇒	HeftXXI S. 1300 (J.Massie) An Essay on the Governing Causes of the Natural Rate of Interest, wherein the sentiments of Sir W. Petty and Mr. Locke, on that head, are considered. London. 1750	⇒ 3) Drittes Buch Fünftes Kapitel 2) Theilung des Profits. usw.

HeftXXI S. 1300	This rule of <i>dividing profits</i> is not however to be applied particularly to every lender and borrower, but to lenders and borrowers in general ... remarkably great and small gains are the reward of skill, and the want of understanding, which <i>lenders have nothing at all to do with</i> ; for as they will not suffer by the one, they ought not to benefit by the other. What has been said of <i>particular men in the same business</i> is applicable to <i>particular sorts of business</i> . (50) [MEGA ² II/3-6, S. 2125. 22-8]					
3) Drittes Buch Fünftes Kapitel	d)*This <i>rule of dividing profits</i> is not however to be applied particularly to every lender and borrower, but to lenders and borrowers in general ... remarkably great and small gains are the reward of skill, and the want of understanding, which <i>lenders have nothing at all to do with</i> ; for as they will not suffer by the one, they ought not to benefit by the other. What has been said of <i>particular men in the same business</i> is applicable to <i>particular sorts of business</i> ; if the merchants and tradesmen employed in any one branch of trade, get more by what they borrow than <i>the common profits</i> made by other merchants and tradesmen of the same country, the extraordinary gains is theirs; though it required only common skill and understanding to get it; and not the lenders' who supplied them with money ... for the lenders would not have lent their money, to carry on any branch of trade upon lower terms, than would admit of paying so much as the <i>common rate of interest</i> ; and therefore they ought not to receive more than that, whatever advantage may be made by their money." (<i>Massie</i> . 50-51. l. c.) [MEGA ² II/4.2, S. 438. 32-43]					
211-3	Storch 1815 t. II p. 140	⇒	Beiheft G	⇒	HeftXXIII S. 1431 Unterschied in der Circulationszeit.	⇒ 3) Drittes Buch Siebentes Kapitel 2) [Zur Analyse des Produktionsprozesses]
HeftXXIII S. 1431	1) «le <i>capital circulant</i> [warum nicht auch fixe?] employé en matériaux, matières premières et ouvrage fait, se compose lui-même des <i>marchandises</i> dont le <i>prix nécessaire est formé des mêmes éléments</i> ; de sorte qu'en considérant la totalité des marchandises dans un pays, il y auroit double emploi de ranger cette portion du capital circulant parmi les éléments du prix nécessaire.» (140) [MEGA ² II/3-6, S. 2334. 11-6]					
3) Drittes Buch Siebentes Kapitel	1) «le capital circulant employé en matériaux, matières premières et ouvrage fait, se compose lui-même des marchandises dont le prix nécessaire est formé des mêmes éléments; de sorte qu'en considérant la totalité des marchandises dans un pays, il y auroit double emploi de ranger cette portion du capital circulant <i>parmi les éléments du prix nécessaire</i> .» t. II (140) <i>Storch</i> . [MEGA ² II/4.2, S. 866. 36-9]					
211-4	Storch 1815 t. II pp. 140-1	⇒	Beiheft G	⇒	HeftXXIII S. 1431 Unterschied in der Circulationszeit.	⇒ 3) Drittes Buch Siebentes Kapitel 2) [Zur Analyse des Produktionsprozesses]
HeftXXIII S. 1431	«Il est vrai que le <i>salaire</i> de l'ouvrier, de même que cette partie du profit de l'entrepreneur qui consiste en <i>salaires</i> , si on les considère comme une portion de subsistances, se <i>composent également de marchandises</i> achetées au prix courant, et qui comprennent de même <i>salaires, rentes de capitaux, rentes foncières et profits d'entrepreneurs</i> ... cette observation ne sert qu'à prouver qu'il <i>est impossible de résoudre le prix nécessaire dans ses éléments les plus simples</i> .» (140[-1] Note) [MEGA ² II/3-6, S. 2334. 17-23]					
3) Drittes Buch Siebentes Kapitel	1)..... «Il est vrai que le salaire de l'ouvrier, de même que cette partie du profit de l'entrepreneur qui consiste en salaires, si on les considère comme une portion de subsistances, se composent également de marchandises achetées au prix courant, et qui comprennent de même salaires, rentes de capitaux, rentes foncières et profits d'entrepreneurs ... cette observation ne sert qu'à					

	prouver qu'il <i>est impossible de résoudre le prix nécessaire dans ses éléments les plus simples</i> » (140 Note) (l. c.) [MEGA ² II/4.2, S. 866. 41-2 u. S. 867. 25-8]					
336-1†	Le Trosne 1846 pp. 928-9	⇒	Beiheft E	⇒	HeftXXIII S. 1459 Accumulation au delà de la Réproduction annuelle.	⇒ 15) Zweites Buch (Manu. II) Zweites Kapitel Zur Kritik der Theorien über fixes
Beiheft E S. 11	/11/Au moyen de la <u>durée plus ou moins grande des ouvrages de main d'œuvre</u> , une nation possède un fonds considérable de richesses, <u>indépanant</u> de sa reproduction annuelle, qui forme un <i>capital accumulé</i> de longue main, et originairement payé avec des productions, qui <i>s'entretient</i> et s'augmente toujours. (928, 929)					
HeftXXIII S. 1459	«Au moyen de la durée plus ou moins grande des ouvrages de main-d'œuvre, une nation possède un fonds considérable de richesses, <i>indépanant</i> de sa reproduction annuelle, qui forme un <i>capital accumulé</i> de longue main, et originairement payé avec des productions, qui <i>s'entretient</i> et <i>s'augmente</i> toujours.» (928, 929) [MEGA ² II/3-6, S. 2371. 30-5]					
15) Zweites Buch (Manu. II) Zweites Kapitel	«Au moyen de la durée plus ou moins grande des ouvrages de main d'œuvre, une nation possède un fonds considérable de richesses, <i>indépanant</i> de sa reproduction annuelle, qui forme un <i>capital accumulé</i> de longue main, et <i>originairement payé avec des productions</i> , qui s'entretient et s'augmente toujours.» (928, 929) [MEGA ² II/11, S. 139. 20-4]					
211-3	Storch 1815 t. II p. 140	⇒	Beiheft G	⇒	HeftXXIII S. 1431 Unterschied in der Circulationszeit.	⇒ 15) Zweites Buch (Manu. II) Drittes Kapitel A) Die gesellschaftliche Cirkulation
HeftXXIII S. 1431	1) «le <i>capital circulant</i> [warum nicht auch fixe?] employé en matériaux, matières premières et ouvrage fait, se compose lui-même des <i>marchandises</i> dont le <i>prix nécessaire est formé des mêmes éléments</i> ; de sorte qu'en considérant la totalité des marchandises dans un pays, il y aurait <u>duble emploi</u> de ranger cette portion du capital circulant parmi les éléments du prix nécessaire.» (140) [MEGA ² II/3-6, S. 2334. 11-6]					
15) Zweites Buch (Manu. II) Drittes Kapitel.	«le capital circulant employé en matériaux, matières premières et ouvrage fait [dieß ist also der Theil des Constanten Kapitals, der aus Hilfsstoffen, Produktionsmaterialien besteht, leztre schliessen die Halb- od. Stufenfabrikate ein] , se compose lui-même des <i>marchandises</i> dont le prix nécessaire est formé des mêmes éléments; de sorte qu'en considérant la <i>totalité des marchandises dans un pays</i> , il y aurait <u>duble emploi</u> de ranger cette portion du capital circulant parmi les éléments du prix nécessaire.» (t. II Petersb. Edit. 1815, p. 140) [MEGA ² II/11, S. 353. 40-354. 6]					
211-4	Storch 1815 t. II pp. 140-1	⇒	Beiheft G	⇒	HeftXXIII S. 1431 Unterschied in der Circulationszeit.	⇒ 15) Zweites Buch (Manu. II) Drittes Kapitel A) Die gesellschaftliche Cirkulation
HeftXXIII S. 1431	«Il et vrai que le <i>salaire</i> de l'ouvrier, de même que cette partie du profit de l'entrepreneur qui consiste en <i>salaires</i> , si on les considère comme une portion de subsistances, se <i>composent également de marchandises</i> achetées au prix courant, et qui comprennent de même <i>salaires, rentes de capitaux, rentes foncières et profits d'entrepreneurs</i> ... cette observation ne sert qu'à prouver qu'il <i>est impossible de résoudre le prix nécessaire dans ses éléments les plus simples</i> .» (140[-1] Note) [MEGA ² II/3-6, S. 2334. 17-23]					

15) Zweites Buch (Manu. II) Drittes Kapitel.	«Il est vrai que le salaire de l'ouvrier, de même que cette partie du profit de l'entrepreneur qui consiste en salaires, si on les considère comme une portion de subsistances, se composent également de marchandises achetées au prix courant, et qui comprennent de même <i>salaires, rentes de capitaux, rentes foncières et profits d'entrepreneurs</i> ... Cette observation ne sert qu'à prouver qu'il est impossible de résoudre le prix nécessaire dans ses éléments les plus simples.» (l. c. Note) [MEGA² II/11, S. 354. 20-6]
---	---